

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	住吉区
学 校 名	大阪市立荻田小学校
学校長名	原 直樹

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立荻田小学校では、第6学年 94名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

教科に関する調査

- 【国語】 本校正答率：58%
大阪市平均より 8 ポイント、全国平均より 9.7 ポイント下回っている。
- 【算数】 本校正答率：54%
大阪市平均より 8 ポイント、全国平均より 9.4 ポイント下回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

学習指導要領の内容ごとに分析すると、「話すこと・聞くこと」における平均正答率が大阪市平均を上回っている。話し合いの話題や展開をとらえながら、他の児童の発言と結びつけて自分の考えをまとめ発表するという授業実践を、継続的に取り組んできた成果だと考える。一方、「書くこと」「読むこと」における平均正答率は、大阪市平均を下回っている。言葉の特徴や使い方、我が国の言語文化に関する事項等、基礎学力の定着が課題である。また、情報の扱い方に関する事項における平均正答率について、大阪市平均には届かなかったものの、その差を昨年度より縮めた。1人1台学習者用端末をはじめとするICTを活用した授業実践を、継続的に取り組んできた成果だと考える。

【算数】

学習指導要領の領域ごとに分析すると、いずれの領域においても大阪市平均を下回っているものの、「数と計算」「変化と関係」「データの活用」においては、その差を昨年度より縮めた。基礎基本の定着をめざして、朝学習や家庭学習において、プリントやデジタルドリル等に継続的に取り組んできた成果だと考える。一方、「図形」においては、昨年度より大阪市平均との差が大きくなった。紙プリントやタブレット画面ではなかなか身につかせることができない、立体の感覚等の育成が課題である。

質問調査より

各教科について「好きですか」の質問において、肯定的に回答した児童は、国語：41.7% 算数：44.0% 理科：67.8% 英語：61.9% であり、いずれの教科も大阪市平均を下回っている。児童に興味・関心をもたせる授業の充実が課題である。

「友達関係に満足していますか」の質問において、肯定的に回答した児童は90.4%と大阪市平均を上回っているが、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問においては67.8%と下回っている。良好である友達関係を、学校生活の多くを占める「授業時間」においても「学びあえる」「高めあえる」関係へと進展させていくことが求められる。

今後の取組(アクションプラン)

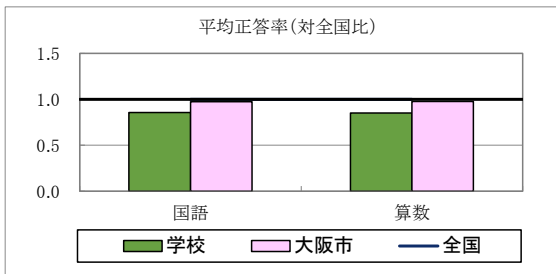
児童の学習に対する興味・関心を高める指導のくふうに継続的に取り組んでいくとともに、児童一人一人が学力を向上できるような指導の充実をはかっていく。

- ・習熟度別少人数指導やチーム・ティーチングなど児童の実態に応じたきめ細やかな指導が展開できる学習形態のくふう
- ・児童の習熟に応じた反復学習や発展学習に児童自らが選択して取り組めるデジタルドリル等の1人1台学習者用端末の活用のかんづ
- ・スクールアドバイザーや学びサポーターとの連携による学習指導および基礎基本の定着
- ・「ポジティブ行動支援」：児童のポジティブな行動を、児童にとってポジティブなアプローチ、望ましい行動を増やすアプローチで伸ばし、「やった!」「できた!」を増やす。

【 全体の概要 】

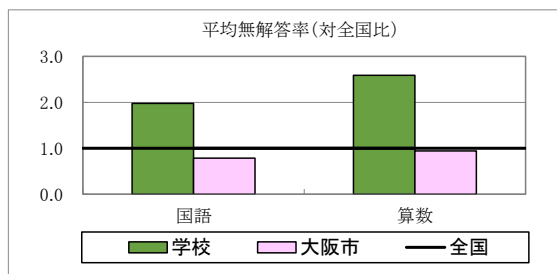
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	58	54
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4



平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	8.3	8.8
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4



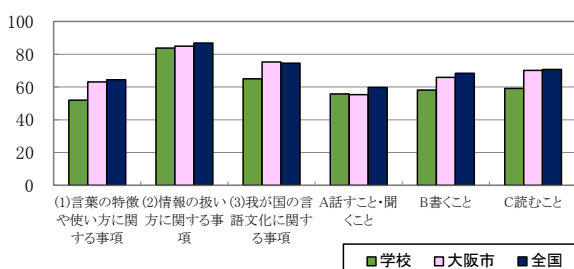
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	51.9	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	83.8	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	65.0	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	55.8	55.3	59.8
B 書くこと	2	58.1	65.9	68.4
C 読むこと	3	59.2	70.1	70.7

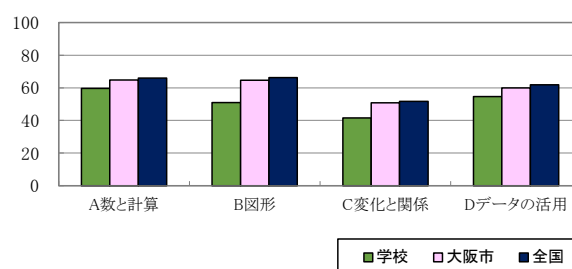
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	59.7	64.8	66.0
B 図形	4	50.9	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	41.6	50.8	51.7
D データの活用	4	54.6	60.0	61.8

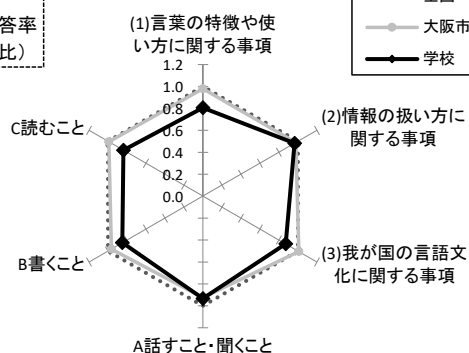
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



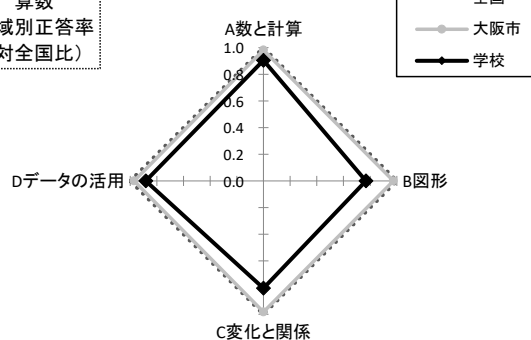
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)



算数
領域別正答率
(対全国比)



児童質問より

質問番号

質問事項

9

自分には、よいところがあると思いますか

1

2

3

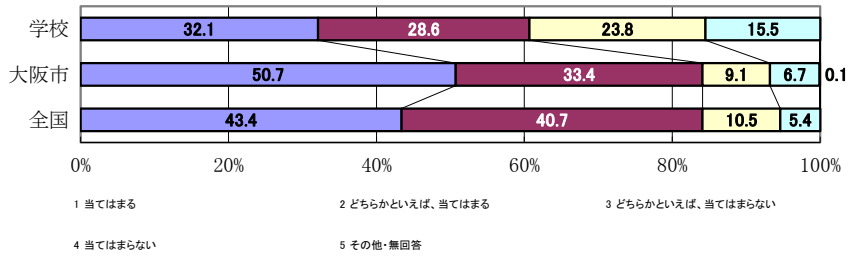
4

5

6

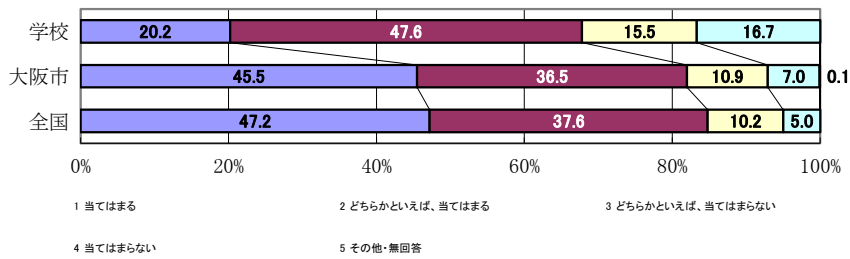
7

8



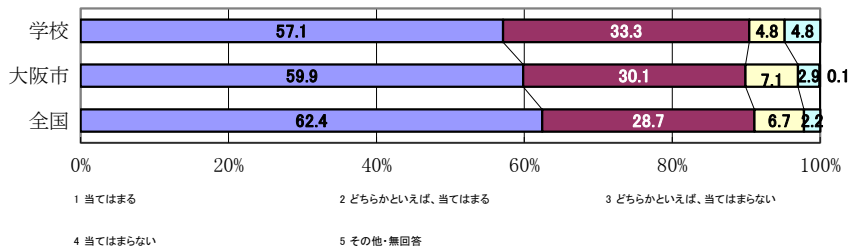
16

学校に行くのは楽しいと思いますか



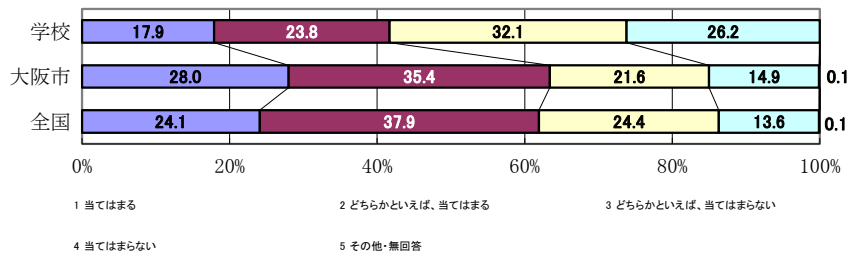
18

友達関係に満足していますか



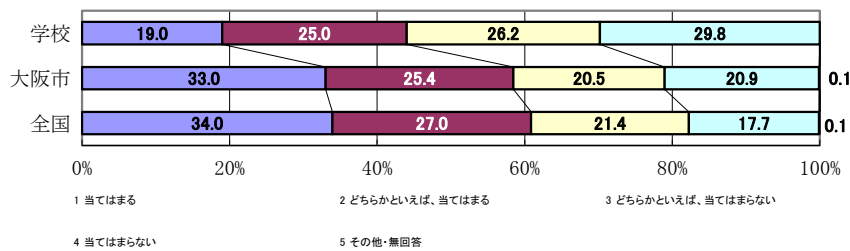
42

国語の勉強は好きですか



50

算数の勉強は好きですか



学校質問より

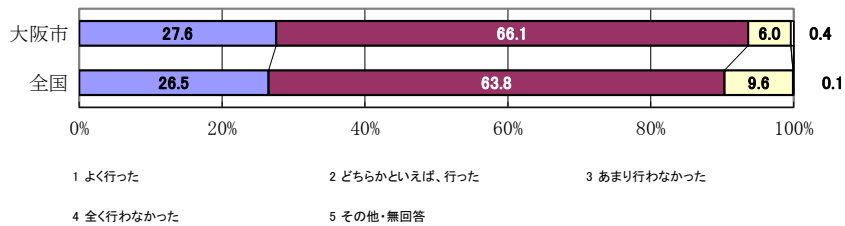
質問番号

質問事項

30

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか

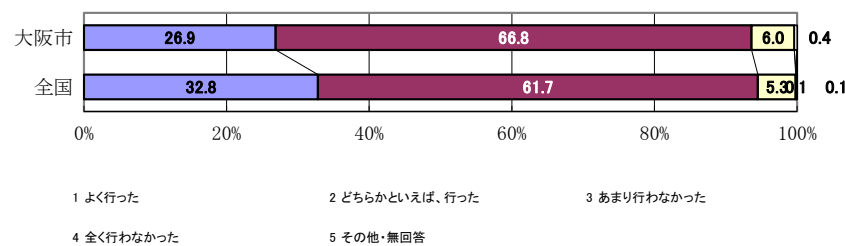
学校 「よく行った」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

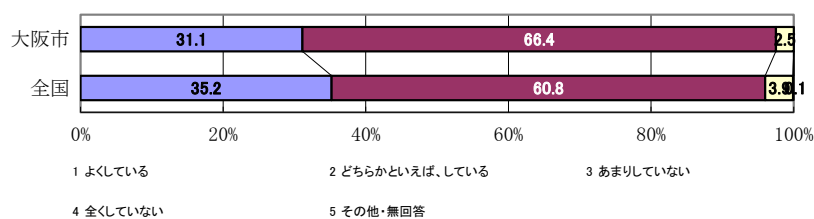
学校 「よく行った」を選択



39

調査対象学年の児童に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか

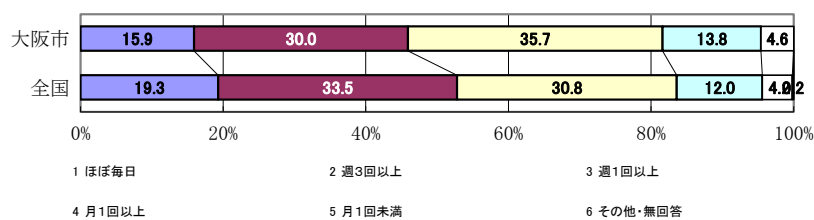
学校 「よくしている」を選択



61

調査対象学年の児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「ほぼ毎日」を選択



72

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか

学校 「よく行った」を選択

